



令和5年度 第6号  
常磐野小学校 校長室だより  
令和5年10月16日発行 文責 清川 秀一

学校教育目標

つながり、深まり、未来をつくる子



植物園のキンモクセイの開花が観測以来一番遅いという記事が京都新聞に掲載され、遅ればせながら秋の気配を感じるころとなりました。

さて、今週は19日（木）に、人権に関する授業参観と懇談会を行います。保護者の皆様に来ていただく意図を一言で言うなら、「人権は 理解し 意識していないと守られない」からで、ご家庭でも意識していただくための機会として開催しています。

先日、京都市の人権研修会に参加し、ある学校の実践発表の中で「差別はたいてい悪意のない人がする」という言葉がありました。「なるほど」と合点のいく事例がいくつか浮かんできました。自分自身では、「人権は大切にしていて、自分が差別するようなことはしていない」と思っていても、理解ができていなければ、思わぬところで自分が人を傷つけている可能性があることに気づきました。

もともと人権というものはこの世に存在しなかったもので、人間によって作り出されたものです。憲法上では人間みな平等ですが、一般社会における企業や様々なグループには上下関係が存在し、友達関係や家族関係の中にも立場の強弱が生まれやすく、「合う・合わない」という感覚で、自分の考えに合うものとはグループになり、違うものと疎遠になります。集団が機能したり、持続したりしていくことは、それ相応の努力が必要ですが、もし自分がマイノリティの立場であったなら、どのような気持ちになるでしょうか。

マイノリティ側からすると、自分がマイノリティであるということは公言しにくく、知られたくないという方も多いと思います。知識が少なく、何も知らなければ、自分がマジョリティ側に立った考えをマイノリティの方に話してしまうケースも出てくることでしょう。

マイノリティ側に立ってものを考えること、マジョリティ側が理解すべきこと、これを人権学習では大切にしたいと思います。「他者理解」という言葉にも置き換えられます。一歩日本之外に出れば、自分がマイノリティになるわけですから、自分は常にマジョリティであるという考えは持つべきではないと考えます。様々な立場の方について理解し、日常生活の中で、どれだけ相手のことを考えて話をしているだろうか？これを聞いた人は何か気分を害することはないだろうか？と意識することが人権を守ることにつながるのではと考えます。

懇談会では、1学期に児童が行った「自立する力」のアンケート結果の概要もお知らせします。ご都合が合うようでしたら、ぜひ懇談会にお立ち寄りください。